

第3学年 音楽科学習指導案

日時 平成27年10月29日(木) 公開授業Ⅲ
生徒 3年4組(男子 17名 女子 15名 計32名)
指導者 岩淵 稚江

1 題材名 歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫しよう
教材曲 帰れソレントへ

2 題材について

(1) 題材について

本題材は学習指導要領に示された指導事項のうちの、第2、第3学年の内容「A表現(1)ア 歌詞の内容や曲想を味わい、曲のふさわしい表現を工夫して歌うこと」、共通事項「(1)アの速度」について、指導を行うものとする。A表現(1)の指導事項では、「歌詞の内容や曲想を味わい、表現したい思いや意図をもって曲にふさわしい表現を工夫して、歌う能力を高めること」をねらいとしている。

「曲にふさわしい」とは、多くの人が共通に感じ取れるような楽曲固有のよさや特徴のとらえ方を意味している。第1学年では、単に「表現を工夫して歌う」だったが、第2学年及び第3学年では、「曲にふさわしい表現を工夫して歌う」となり、第1学年よりさらに価値判断を伴った、より豊かな音楽表現の工夫が目指される。曲想を味わうことによって、それぞれの曲にふさわしい自己のイメージや感情を広げ、思いや意図をもって創意工夫して歌わせたい。そのためには、要素の働かせ方を思考錯誤し、曲にふさわしい表現を見出していきたい。

(2) 生徒について

「速度」を示す記号として主に rit. や a tempo、フェルマータ等があげられる。これらの記号については、ほとんどの生徒が読みや意味を理解している。しかし、概念として理解はしているが、どのような時に用いられることが多いのか、またその効果については、あまり関心は高くない。特にフェルマータ記号は、曲の終わりに登場することが多く、曲の最後に余韻を残す役割という程度の認識であると思われる。

今回は、前時の合唱取り組みを参考に、どのような時に速度の変化が見られたか、速度に変化をつけることでどのような効果が期待できたか、等ポイントを整理し、特に、フェルマータは思いを込めた時も効果的な活用ができることに気づかせ、自分達の思いを表現する力をつけさせていきたい。

(3) 指導にあたって

本教材は、イタリアの有名な歌唱曲である。イタリアの気候・風土など復習し曲の特徴へ活かせるよう、関連させたい。その際のポイントを「速度」に焦点化し、これまで歌唱の「速度」を表すリタルダント記号やフェルマータ記号はどんな時についていたかを考え、自分達の思いを表現する工夫につなげていきたい。単純に楽譜に示されている記号ではなく、音の並びや歌詞の内容からどれくらい速度に変化をつけていくか、そこに個々の思いや考えの違いが生まれ、表現の工夫につながっていくことに気づかせていきたい。

「見通す」活動は速度の変化を考える活動で、「振り返る」活動は表現の工夫を考えた後の演奏で行っていく。

3 題材の目標

○歌詞の内容や曲想に関心をもち、曲にふさわしい表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。

【関心・意欲・態度】

○音楽を形づくっている要素(速度)を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、歌詞の内容や曲想を味わって曲にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。

【創意工夫】

○歌詞の内容や曲想を生かした、曲にふさわしい表現をするために必要な技能を身につけて歌っている。

【技能】

4 指導計画 (3時間扱い 本時2/3)

次	時間	学 習 活 動
一	1	歌詞の内容を考えながら、旋律の歌い方を工夫する。
二	1	楽曲の特徴を理解し、曲にふさわしい表現を工夫する。(本時)
	1	教科書の表現を確認し、自分達の表現と比較しながらその意味を考える。

5 本時の指導について

(1) 目標 速度の変化を生かした表現を工夫しよう。

(2) 評価規準

観 点	B おおむね満足できる	Bに到達させる手立て
<音楽への関心・意欲・態度> 表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている	速度の変化を生かした表現の工夫を考えようとしている。	これまで工夫してきた項目を提示する。 (見通す活動の内容を黒板に示す)
<音楽表現の創意工夫> 曲にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもっている	速度の変化を生かした表現について考え、どのように歌うかについて、自分なりに考えている。	項目を楽譜に当てはめて考えさせる。
<音楽表現の技能> 曲にふさわしい表現に必要な技能を身につけて歌っている	自分なりに考えた速度の変化や工夫を意識して歌っている。	記号の意味を確認しながら練習させる。

(3) 指導の構想

- ・「見通す」活動で、これまで「速度」について工夫してきた内容を振り返り確認する。
- ・工夫してきた内容を、実際に学習曲に当てはめ、自分達の表現の工夫に活かす。
- ・「振り返る」活動で、各グループの工夫を発表し、教科書の工夫の意味を考える。

(4) 展開

段 階	学 習 活 動	形 態	○教師の働きかけと指導上の留意点 ●評価の観点(方法) ☆見通す・振り返る活動
導 入 5 分	1 前時の復習 ・帰れソレントへ 2 本時の課題確認	全	○あまり速度に変化をつけず、淡々と歌う。 ○歌詞の内容とカンツォーネの特徴、同主調について復習する。
	速度の変化を生かした表現を工夫しよう。		
展 開 40 分	3 工夫のポイント確認 (速度) 4 工夫を考える	全 個	☆これまで学習した曲は、どのように「速度」が工夫されていたか(振り返り) ⊕曲の終わり、雰囲気が変わる所などに記号がついていることが多かった。 ☆記号で示された速度の表現は、思いによって違いがあることに気づかせる 例:「思い出 さそう」の rit. (見通す) ・等間隔でゆっくり・だんだんゆっくり・急激にゆっくり・など ○自分の「速度」の工夫を考える。(最後の2段のみ) ・字の大きさを変える、棒線で長さを表す、等音符以外の手段で自分の考えを図面に書き表す。 ・歌詞の内容や音の並びなど、根拠をもって考えさせる。 ●【音楽表現の創意工夫】「見通す」活動で出たポイントが楽譜の中に活かされているか。(プリント)
	5 交流する	班	○班ごとに個人の意見を交流する。互いの考えを聞き、学び合う。
	6 発表する(代表者)	全	○班の中から代表者の工夫を発表する。 ・発表を聴き合い、表現の工夫を学び合う(感想発表)
	7 プロの演奏から学ぶ	全	○プロの演奏から豊かな表現の工夫を学ぶ(三大テノール視聴)
終 末 5 分	8 本時の振り返り ・自己評価用紙の記入	個	☆●【音楽への関心・意欲・態度】曲想を味わい、思いをもって速度の変化を生かした表現の工夫ができたか。(振り返り)(自己評価用紙) <期待する振り返り> ・「帰れきみ」のフェルマータ記号は、のばす音の長さで「行かないでくれ～」という思いの強さを、より表現できると思った。 ・rit.といっても、いろいろな速度の変化の仕方があると思った。・など